令和８年度第２回横須賀市スポーツ推進審議会 会議録

■日　　時　令和8年(2026 年)9月 28 日(月)14:30～15:30

■会　　場　横須賀市役所　3号館5階　正庁

■出席委員　横須賀市スポーツ推進審議会委員(敬称略　50 音順)　9名
石川輝雄、石渡淳史、筧修一、加藤明成、佐野美智子、東海林義勝、
高井環、林但、米本篤子

■事 務 局　文化スポーツ観光部　安田憲二部長
スポーツ振興課　高橋哲也課長、飯田武伸係長、飯島良太主査
沼尻正昭係長、片桐隆貴主任
教育委員会事務局学校教育部保健体育課　原康弘課長、津田尊夫係長

■傍 聴 者　1名

■議事内容　開会
１ 議題
横須賀市スポーツ推進計画(素案)について
２ 意見交換

■資　　料　第2期横須賀市スポーツ推進計画(素案)

【開　会】

事務局が令和８年度第２回横須賀市スポーツ推進審議会の開会を告げた。

１　議　題

横須賀市スポーツ推進計画（素案）について

・概要説明

事務局が資料をもとに説明

・審議・意見交換

□　委員

P21 施策１ライフステージに応じたスポーツ機会の充実について、高齢になると身体を動かす機会が減少しやすいことから、市民スポーツ教室ガイドに掲載されている「はつらつ体操教室」は重要な取組みであると考える。一方で、高齢者からは、自宅近くで参加できる場所が少ないとの声を聞いている。高齢者が参加しやすい環境を整えるため、小・中学校など身近な施設で教室を実施することはできないか。また、会場が身近な場所にあれば、高齢者を会場まで送迎・同行する支援も可能と考える。

□　事務局

部活動終了後の平日夜間や土・日曜日であれば、学校側と調整のうえ会場を確保できる可能性がある。今後、横須賀市スポーツ指導者協議会との調整が整えば、教室の実施は可能と考えている。

□　委員

地域サロンの運営や福祉活動に携わる立場から、スポーツを通じた健康づくりの取組みを地域で活動する幅広い団体にも広げ、連携できないか。

□　事務局

体操の方法を教える講師を地域の活動団体へ派遣するイメージか？

□　委員

それも一つだと思っており、スポーツの専門の方と地域団体とのつながりが持てると、幅が広がると思っている。

□　事務局

健康福祉とスポーツ振興の差がなくなってきている。今後は健康部とも連携し、取組みの進め方を検討していく。

□　委員

地域で中心となってスポーツ活動を支えているのは、スポーツ推進委員や学区体育振興会の方々である。しかし、県のスポーツ推進計画や本計画（素案）では、これらの役割が十分に記載されていないため、明記してほしい。また、資料には出典やデータの時点を記載してほしい。

□　事務局
ご意見を踏まえ、今後調整していきたい。

□　委員
中学校部活動の地域展開について、学校、生徒、教職員、スポーツ関係団体など、それぞれの役割を明確にしていければと感じている。

□　事務局
昨年度から合同部活動を行っているが、いろいろ課題も見えてきている。教職員の負担があまり減っていないので、制度設計も含めて今後ご相談させていただきたいと思っている。

□　委員
主なスポーツ施設の概要について、いつまで施設は使用できるのか？

□　事務局
鉄筋コンクリート造の施設は、一般的に約 70 年使用できるとされている。費用面も踏まえ、使用可能な施設は維持・修繕しながら活用していく。一方、温水プールは設備が複雑であるため、体育会館より老朽化が早く、30 年程度で不具合が生じる可能性がある。

□　委員長
健康づくりとスポーツの関わりは深まっており、特に障がい者スポーツは、福祉・医療分野と連携しやすい。以前、病棟でフライングディスクを取り入れた例では、レクリエーションとして病院の理解も得られたこともある。市役所部局間で連携しながら取組みを進めてほしい。

□　委員
山形県の酒田市が老朽化した図書館から新しく駅前に建替えを使用して、ボッチャやモルックを実施して図書館利用者が増えたことがあり、このような事例をふまえると、連携できることはたくさんあると考えられる。

□　事務局
市議会で、運動を通じたフレイル・介護予防の推進、ヘルスケアデータを活用した健康・介護予防支援を成果指標に加えられないか、意見をもらった。ただ、個々のデータを持ちあわせていないのと、それを計画全体に反映させるのは難しいと感じており、委員の皆様に本日お諮りし考えていきたい。

□　委員
アンケートなどは、どのようなタイミングで何名程度のデータをとっているのか？

□　事務局

昨年度から、よこすかスポーツフェスタやその他のイベントにおいて、アンケートを実施している。

□ 委員
極端な話になるが、成果指標の達成状況をボーナスなどの評価に反映する仕組みも考えられる。

□ 事務局
横須賀市でも、成果を重視する評価の考え方が変化している。一方、成果指標の数値達成にとらわれ、施策が義務的に進められることが、必ずしもスポーツ振興につながるとは限らない。３年間の計画期間においては、委員をはじめ、スポーツ推進委員、学区体育振興会など地域の関係者と連携しながら施策を進めていくものと考えている。成果指標については、可能な限り向上を目指すとともに、市民満足度の向上につなげていく。

□ 委員長
介護予防とスポーツ振興は目的や切り口が異なるため、同じ成果指標で評価することは難しいと考える。介護予防やフレイルに関する指標は、健康部が把握している指標を活用することが適切ではないか。

□ 事務局
そのように進めていく。
また、本日以降、他にご意見等があれば 10 月 30 日までに事務局までお願いしたい。

２ 意見交換

□ 委員
スポーツ推進委員は若い世代の担い手が減少しているが、引き続き市と連携しながら活動を進めていきたい。

□ 委員
アジア大会では、e スポーツやアーバンスポーツなどが注目されており、スポーツに対する考え方も時代に合わせて変えていく必要がある。また、スケートボードや水泳など、競技を始める年齢が低くなっているスポーツもある。スポーツに関する情報発信も重要であり、地域のスポーツの話題を市民に広く伝えていく必要がある。スポーツ協会としても、10 月の壮行会などを通じてスポーツ振興に取り組むため、引き続き協力をお願いしたい。

□ 委員
80 歳でもスポーツを楽しむことができる環境にしていきたいと思っているので、引き続きご協力をお願いしたい。

□ 委員
レクリエーション協会には10種目の団体があり、より良い活動環境の整備に努めていきたい。

□ 委員
「中学校部活動の地域展開」は、地域、家庭、学校、指導者の４者が連携して進める必要があり、指導者だけに任せることはできない。また、スポーツをしたくても参加できない児童・生徒への配慮も必要である。

□ 委員
中学校・高校の部活動に携わった経験から、今後の部活動の地域展開がどのように進められるのか、期待している。

□ 委員
ウィンドサーフィンワールドカップには、運営を支える立場で参加する。学区体育振興会としては、今後も地域と連携しながら様々な行事づくりに取り組んでいく。また、10月18日に健民運動会を開催する。今年度から町内会対抗種目は設けず、「みんなで参加し、みんなで楽しむ」ことを基本方針として実施する。

□ 委員
西体育会館のはつらつ体操教室では、３年前の参加者で足を引きずっていた方が、指導されたことを毎日実践して、元気になったという報告も受けており、健康づくりにつながっている。また、小学校の運動会では種目の変更が進んでおり、児童が達成感を得られているか懸念している。

□ 委員長
障がい者スポーツは、競技団体の協力によって支えられている。アジアパラ競技大会には横須賀市出身の選手が出場予定であり、青森県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会には、本市出身の選手４人が出場する。

□ 事務局
くりはま花の国プールでは、駐車場の有料化を予定している。また、今後予算の調整が必要だが、令和９年度にはメインアリーナ及びサブアリーナ競技場の照明LED化、あわせて、北体育会館ではプール槽の改修工事を行う予定で、安全に利用できる施設整備を進めていく。

□ 委員長
次回は令和９年１月中旬を予定。